

11/13

災害時に備え  
給水車を配備

災

害時に急急に給水を行う際、迅速に対応できるように、加圧式給水車を配備し、水道局で納車式を行いました。

東日本大震災で同局職員が現地に向かい給水支援を行いました。緊急時には素早い給水活動が必要であることから、作業の効率性を考慮し配備したものです。

今回の配備により、災害時はもちろん、地域的な断水の発生などにも迅速に給水拠点を設置することができ、今後さまざまな事態を想定しながら、対応できる体制づくりに努めていきます。

加圧式給水車配備納車式



11/19

笑いの  
絶えない講演会に

市

制施行70周年を記念して、「第4回心に残る講演会」を市民会館で開催しました。

本県出身でテレビなどで活躍されているフリーアナウンサーの草野仁さんを講師にお迎えし、「いつもチャレンジ精神で」と題して講演いただき、「心に残る講演会」のラストを飾っていただきました。

草野さんは、ご自身の芸能活動を通して得た経験を基に、番組や出演者の裏話などをバブルかつユーモラスに話され、会場に集まった皆さんは興味深く耳を傾けていました。

「第4回心に残る講演会」草野仁氏講演会



11/23

深まる  
秋の大村を散策

市

制施行70周年記念事業「ユニバーサルスポーツフェスタin大村」が市内各所で開催されました。

これは日本オリエンテリング協会と、市実行委員会の主催で開催されたもので、さくらホールで開催された開会式では選手の方々に対し、松本市長が歓迎のことばを述べました。

3日間でオリエンテリング競技の4つの全日本大会が行われたほか、24日には市民を対象とした大会も開催され、参加した皆さんは、深まる秋に大村公園や市内の史跡などを巡りながら競技を楽しみました。

ユニバーサル・スポーツフェスタin大村



夢に向かって

「夢は見るものではなく、実現させていくものだ」というのが私の持論です。毎年、ひとつでも夢が実現できるよう努力していかなければなりません。

今、長崎大学の新学部を大村へ誘致できるか正念場にあります。このことは「語学センター」、あるいは英語を使って勉強する「研究センター」ができないものか模索していたことに端を発したことでした。

私は、約50年前にアメリカ合衆国のスタンフォード大学の交換留学生として3か月間青春を謳歌しました。その折、シアトルで見たワシントン湖に浮かぶ「フローティングブリッジ」を未だ忘れられることができます。市長になる前から夢見ていることですが、長崎空港から西彼杵半島に架かる「大村湾の浮橋」。この夢もまだまだ諦めていません。

ところで、昨年の10月には14階建て分譲マンション「アンピール大村」の居住が始まり、11月には商業施設「コレモおおむら」がオープン、長年待望久しかった大村駅前を中心市街地再開発がスタートし、駅前の風景が一変し誇れる街になったとの声をよく聞きます。また、10階建ての賃貸マンションも、この2月から居住が始まります。

10年後に開業予定の新幹線の新駅周辺のまちづくりが、将来の大村市の大きな課題です。この「(仮称)新大村駅周辺」には、現在の駅前とは違った新たな「まちづくり」を構想しています。大学・研究施設・オフィスなど、新幹線、空港、高速道路をいかした街の実現が急がれています。

本年、大村市で成人式を迎える若者は928人です。すでに各方面で活躍してくれています。この若者たちに、大村で高等教育を受ける拠点を創出し、多くの若者が大村で就労できる機会をつくるのも私どもの使命だと思っています。

本年も大学・研究機関や企業の誘致を目指し、前進してまいります。